

【環境に優しい土木建設機械を採用する仕組みについて】

E：　　うちは建設機械のレンタルと販売、修理で業をなしております。県中央部に3店舗と、そしてこちらの宿毛の工業団地に1店舗の経営展開をしております。

4店舗の中で、この工業団地は、やはりインフラがしっかりしていて、地代含めコストが非常に安いといったところで、メリットを得ております。ただアクセスについては、先ほどから言われた皆さんと同じでありまして、やはり高知市のほうから時間がかかるという部分がデメリットであると思います。

しかしながら、昨年、尾崎知事の積極的な公共予算等が功を奏しまして、非常にここ5年、6年前から不景気で、リーマンショックの後も非常に厳しかったんですけども、この2年非常に土木関係も動いておりまして、我々のレンタル関係もそれに引っ張られて忙しいという状況です。

ただ、非常に手前味噌で申し訳ないんですが、当社でレンタルしている機械は、燃費にせよ、騒音にせよ、国交省の基準値をかなり高いレベルでクリアしてまして、他社と比べても非常に優秀な機械なんですけど、お客様としたら非常に厳しい予算の中でレンタルしていただいているので、値段だけの競争になって、売上げが上がれど利益出ずというようなことが実情で、非常に困っていることです。

先般、メーカーの研修会に行ったときに、最近の仕事の発注も総合評価、高度技術提案型ということで、いろいろな技術を提案して、その機能を認めてもらって、トータルのコストが全体に下がったといった価値も金額として認めてもらえることができるようになるということを聞きました。行政のほうからも、CO2の削減とか国も挙げてやっているわけですので、燃費のいい建設機械の採用とか、低騒音機械の採用とか、土木建設工事現場でそういう環境維持に関する評価ももらえるといったような仕組みのものを試算していただいて、どんどん環境に優しい建設機械が普及するようなことを考えてもらいたいというのが希望です。

知事：　その総合評価方式の中で、燃費とか環境評価とかがどこまで反映されているかについては、ちょっとはつきりわかりませんが、そのご指摘もとてもだと思いますので、そういうのを進めていくようにさせていただきたいと思います。

さっきの公共事業関係費の話は、県は何とか前年度規模を維持してありますが、国は2割、3割カットして、さらにまたこれから1割カットするかもしれないということで、相当私どもも努力しないといけないと思っています。

というのは、高知県のこのインフラ整備の遅れ方というのは、ある意味度を越えていると私は思っています。実状というものを踏まえてみたときには、高知県においては公共事業は絶対的に必要だと、そういう地域が日本の中にもあるということだと思っております。

高知県は、例えば鉄道の路網密度全国最下位です。国道も県道も高速道路も整備率全

国最下位です。河川、水害による被害額、一人当たりの被害額は全国の約2倍ぐらいですが、河川の整備率は、全国最下位クラスなんです。これはおかしな話で、インフラ整備が極端に遅れているんです。

だから、こういうところには全体の中でも事業費は集中していくべき、県の体力の中で確保できる公共事業費はしっかり確保していかなければならない。やるべく仕事はどっさりあるということです。

またあわせて国のほうに対しても、その事業の必要性というのを、本当に必要なんだということを説得力を持って訴えていくことが大きいと思っています。だんだん国も理解してくれて、今年は道路の予算は、国全体は10%ぐらい減っていますが、高知県への国からの予算は、1%ちょっとぐらいしか減ってないんです。

高知県のインフラ整備は極端に遅れていて、日々の生活の安全確保さえもままならないところもありますから努力したいと思います。

**E：** 当社は、僅かではありますが、8年間新卒を入れてなかったところ、今年は地元の工業高校の生徒を、2名採用いたしました。

知事： ありがとうございます。